

令和6年度英真学園高等学校 学校評価

1. めざす学校像

建学の精神

誠実・勤勉を心がけ、豊かな教養とより深い人間性の育成を目指す

- * 個性や違いを認めて支えあう学園
- * 他人を思いやる心豊かな学園
- * 毎日を肯定的に受け止め、創造力豊かな学園

2. 中期的目標

アジアで活躍する人材の育成

アジアの人々とともに豊かで平和な未来を築く創り手の育成をめざし、生徒とともに教職員も切磋琢磨する学校

1. アジア諸国に興味・関心を持つ

多様な文化・言語に触れ、グローバルな視点で物事を捉える力を養う

2. 情報発信能力を高め、協働的問題解決をはかる力を養う

自らの意見を表現・発信する力、多様な意見を聴き理解する力を養う

3. アジアの中の日本

公共心や規範意識、人権への鋭い感受性と他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高めあう力を養う

4. 主体的・対話的で深い学びの探究

学びへの興味と努力し続ける意志を喚起し、その指導方法を不断に見直し改善する

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [令和7年3月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>学校評価(自己評価)</p> <p>教職員 調査対象 専任教員・専任事務職員</p> <p>調査方法 4段階評価</p> <p>A:よくあてはまる B:ややあてはまる</p> <p>C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない</p> <p>調査項目の分析</p> <p>目指す学校像および中期的目標に、年度当初の方針会議において校長や各部から提議された重点的な取り組み(重点目標)、さらに一昨年度より『観点別評価について』と『教職員に対する人権研修について』の2項目を加えて34項目において学校評価(自己評価)を行った。</p> <p>昨年度と比べ、肯定的(A、Bをあわせたもの)な評価結果が5ポイント以上UPした項目が34項目中20項目あった。特に、『教室の美化を遂行』、『公共の場においてマナー・ルールを守らせる指導はできたか』、『観点別評価について』、『教員向けの人権研修について』、『進路に対する意識発掘、また進路先で不本意な退学や離職をさせないための指導について』の5項目については、昨年に引き続き80%を超える肯定的な自己評価を得た。</p> <p>一昨年度より、『生徒が達成感を持つことができる授業』、『生徒が積極的に意見を出し合えるような授業』を目指してきたが、今年度も80%程度の肯定的な自己評価を得た。また、生徒アンケートでは『各授業やHRにおいて発言(発表)する機会があったか』という設問に対して50%の生徒が『発言できた』と答えている。</p> <p>一方、『アジアの書籍の利用の発信ができたか』、『自らアジア諸国について情報収集をすることができたか』の項目については、ほぼ横ばいとなった。しかし、この件については、来年度は4月にタイの高校生を迎えての交流や、中長期の留学生の受け入れが予定されており、教員や生徒が今まで以上に興味・関心を持つものと確信している。</p>	<p>・34項目中20項目の設問について、肯定的評価(①、②)が昨年度より5ポイント以上UPしていることは評価に値する。先生方の教育に対する真摯な姿勢を示すものとして高く評価したいと思います。</p> <p>・『多様な意見を聞き理解する力(設問8)』、『自ら意見を言い発信する力(設問9)』の肯定的評価が高いのは、生徒たちの活動からわかることなので、先生方の努力を高く評価したいです。</p> <p>・来年度からの新コース(特進コース、マンガ・イラストコース、総合コース)の生徒が、どのように成長してくれるか楽しみです。</p>

学校関係者評価

外部代表として外部理事・幹事、同窓会役員およびPTA役員の方から、学校の状況について意見をいただいた。

- ・先生と生徒の距離が近く、一人一人の子供に寄り添い、丁寧に対応してくれていたのが良かったです。
- ・学校を訪れたとき、生徒達の対応がとてもさわやかで礼儀正しく、気持ちがいいです。
- ・生徒達に様々な教材を通じ「自分自身を知る」「社会を知る」きっかけをいろいろ指導されている。
- ・生徒の育成・指導面において、いろいろと工夫され、生徒に寄り添い、素晴らしい学習環境、不安のない学校生活環境に日々努力されていると思います。
- ・大変厳しい経営・財務状況だと存じますが、今後各コース、募集形式等も変更を前向きに検討されているので、良い方向に向いて毎年の生徒募集人数を確保出来ますよう祈っています。
- ・子供が、毎日使う学校のトイレが清潔で、気持ちよく利用できると喜んでいました。
- ・学校内の空気が明るく生徒の笑顔が多く見受けられました。いじめに対する厳しい指導など、いじめ抑止の効果も高い気がします。
- ・学校と生徒・保護者との連絡ツールとして活用している「BLEND」ですが、先生によって配信の頻度や内容に差があるように思います。

3. 本年度取り組み内容および自己評価

中期的 目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	達成状況と自己評価
1 アジア諸国に興味・関心を持つ	<p>多様な文化・言語に触れる</p> <p>(1) 各クラス・各教科において、アジア諸国の文化や言語に興味関心を待たせ、意識させる</p> <p>(2) 図書室では、教員や生徒がいつでも閲覧できるようにアジア諸国の書籍を揃えておく</p>	<p>(1) 教員は、自らもアジア諸国に興味を持ち、アジア諸国に関する知識を授業やHR活動で生徒に情報発信、生徒に興味関心を持たせる</p> <p>(2) 昨年度設置した「アジア諸国」のコーナーのさらなる充実</p> <p>■生徒アンケートを実施する</p>	<p>(1) どれだけ情報収集できたか どれだけ生徒に情報発信できたか</p> <p>(2) アジア諸国に関する書籍の貸し出し数の増加</p> <p>■日々の学校生活において、アジアを意識できたか</p>	<p>68%の教員が、生徒に対して、興味関心を持たせる情報発信ができた。また、図書室の書籍の利用について発信できたという教員は、ほぼ横ばいであったが、来年度から留学生との交流が行われるので、教員・生徒の興味関心が高まると考える。生徒アンケートを実施した結果、より意識できた生徒は25%と、昨年より微増した。</p>

<p>2 情 報 発 信 能 力 を 高 め 、 協 働 的 問 題 解 決 を 図 る 力 を 養 う</p>	<p>生徒達自ら課題を設定し、独自の考えを見つけ出し、第三者にその成果を伝える力を養う</p> <p>(1) 多様な意見を聴き理解する力を養う (インプット)</p> <p>(2) 自らの意見を表現・発信する力を養う (アウトプット)</p>	<p>(1) 教員は、H R活動・行事・授業において、生徒達自らが考え、意見を出し合い、まとめる機会を設ける</p> <p>(2) 教員は、H R活動・行事・授業において、生徒がプレゼンテーションをする機会を設ける</p> <p>■生徒アンケートを実施する</p>	<p>(1) 生徒が積極的に意見を出し合えるような学習環境を作れたか</p> <p>(2) 生徒が積極的にプレゼンテーションする学習環境を作れたか</p> <p>■他人の意見を聴き理解できたか 自分の意見を発信できたか</p>	<p>『より生徒の意見等を出し合える環境作りができたか』と答えた教員は76%、『学習環境を作ることができたか』と答えた教員は77%と、ともに昨年度と比べて5ポイント以上増加した。生徒アンケートを実施した結果、『積極的に発言ができた』『発言ができた』と感じている生徒は、65%と、昨年度と同程度であった。</p>
--	---	--	---	---

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 アジア の中 の 日 本</p>	<p>日本が世界から評価を受けている、「時間厳守」や「美化意識」、「災害時における物資授受等の規範意識」「思いやりの精神」について考えさせる</p> <p>1. 公共心や規範意識を高める</p> <p>(1) 欠席・遅刻をなくす</p> <p>(2) 美化活動の徹底</p> <p>(3) マナーを守る</p> <p>2. 人権への鋭い感受性と他者理解を尊重する</p> <p>(1) 外部講師を招いての人権 HR の実施</p> <p>(2) 弱者の立場を理解し、助け合いの精神を養う</p>	<p>(1) 毎月1回、「無遅刻週間」を設ける。生徒会のあいさつ運動の実施</p> <p>(2) 生徒会の美化委員会と協力して美化点検を行う</p> <p>(3) 教員による登下校指導 生徒会によるあいさつ運動 通学路でのマナー向上のため、地域の方との連携 被災地に対する支援活動</p> <p>2. 人権意識の育成と人権 HR 活動を通じて他者共生を図る</p> <p>(1) 各学年によりテーマを決めて、外部講師を招いての講演を聴く</p> <p>(2) 視覚障害者の講演を聴く 車いす体験を実施</p>	<p>(1) 欠席・遅刻数において、前年比減を目指す</p> <p>(2) 机の整頓、ゴミ箱にゴミが残っていないか、黒板まわり等、チェック項目を設ける</p> <p>(3) 登下校時、電車内でのマナーを守れたか</p> <p>(1) 講演のあと、フィードバックにより理解したことを定着させることができたか</p> <p>(2) 体験のあと、フィードバックにより理解したことを定着させることができたか</p>	<p>『欠席や遅刻を減らす指導ができたか』と答えた教員は昨年度より5ポイント以上増加して70%であった。毎年少しずつ欠席・遅刻は減少してきていると感じる。</p> <p>『教室の美化の徹底』、『ルール、マナーを守らせる指導ができたか』については、昨年度同様80%以上の教員が、できたと答えている。</p> <p>講演後の振り返りで、理解したことを定着させる指導ができたと答えた教員は77%であった。また、生徒アンケートでも90%を超える生徒が、しっかり理解できたと答えた。</p>
---	---	--	---	--

<p>4 主体的・対話的で深い学びの探究</p>	<p>学びへの興味と努力をし続ける意志を養う</p> <p>各部・各学年等においてコミュニケーションを図り、組織的な指導力を高め、日々の学習活動において、『できた』達成感を共有・蓄積して、生徒と共に探究していく</p> <p>観点別評価について、新たな評価指標を確立する</p> <p>生徒が抱える様々な問題を理解し、援助していくために人権教育に積極的に取り組む</p>	<p>各教科で、ipad を活用した新たな授業の研究を行い、教科会議において授業研究を行う</p> <p>生徒との日々の学習活動において『できた』達成感を共有・蓄積して、その後のクラス運営や学校作りに役立てる</p> <p>各教科の評価の方法、考え方を再検討する</p> <p>学習障害、LGBTQ 等の教員向けの研修を積極的に行い、さらに理解を深める。</p>	<p>研究授業、教科での研修会議の回数</p> <p>いろいろな角度から生徒を評価し、単位認定をおこなう</p> <p>教員向けの研修の回数 人権教育推進委員会からの情報発信</p>	<p>昨年度同様、各教員が自主的に行った結果、取り組みに対する自己評価は、ほぼ横ばいであった。しかし、教科の枠を超えた授業見学や教科会議での意見交換は出来ていたと感じる。</p> <p>生徒アンケートで、95%の生徒が授業等でipadを活用できたと答えた。</p> <p>77%の教員が、『生徒が「できた」と達成感を持たせることができた』と感じている。また、85%の教員が、『観点別評価について新たな評価指標を確立し、単位認定を行うことができた』と答えている。ともに、昨年度より5ポイント以上増加した。</p> <p>今年度も、昨年度同様3回の人権に関する職員研修を実施し、人権教育に積極的に取り組んだ。</p>
--------------------------	---	---	---	--

今後の目標

- ◆新コース 1 年目となる来年度は、100周年に向けての新たなスタートの年と位置づけて、大きく生まれ変わる年とするために、教職員・生徒が一体となって新しい英真学園を作っていく年とする。
- ◆生徒が安心して学校生活を送れるように、学習活動、生徒指導、特活指導、人権教育、支援教育、キャリア教育の充実を図り、『入学生＝卒業生』、さらに全員の進路決定を目指し、教育活動を行っていく
- ◆規範意識を高め、人権を重んじる生徒の育成に取り組み、いじめのない楽しい学校生活を送れる環境づくりを進めていく
- ◆人権に関する教員研修を継続し、生徒が抱えている問題等を理解し、安心して学校生活を送れるように援助していく
- ◆設置2年目となる『支援委員会』をさらに充実させ、様々な問題を抱える生徒に対してよりきめ細かい支援を行う。
- ◆来年度に本館全教室に電子黒板機能を備えたプロジェクターを設置するので、タブレット等を活用した『わかる授業』『生徒自ら学びたいと思う授業』の実現に向けて、さらに各教科で授業研究に取り組む。
- ◆来年度は、タイの高校生との交流会や中長期の留学生を受け入れる予定である。ここ数年具体的な取り組みができなかった、『アジアで活躍する人材の育成を目指す』取り組みをスタートさせる。